

一茶ゆかりの里四季の俳句会（令和元年四～六月分）

選者 志やくなげ 荒井智雄 先生

特選 天 花点前懐紙に一句記しけり 群馬県 鈴木百合子

華やかなお点前の最中にふと、一句浮かび
そつと懐紙に記す風雅な句

特選 地 老いて尚心はなやぐアロハシャツ 愛知県 平野辰美

老いても派手なアロハシャツを着て若返つ
て元気が湧き出てくる句

特選 人 百歳の母に靴買う春近し 上田市 前島さと子

春が近くなり百歳の母と新しい靴で楽し
く、散歩や買物に連れ立って出掛ける待ち
遠しい様子が出ている

入選 妙高に涙する父と春の里 滋賀県 岡崎ひろみ

入選 春の雨農具の手入れ懇ろに 長野市 浦野スミ子

入選 風光る跳ねて帰るやランドセル 群馬県 竹渕千恵子

入選 舌見せていたずらっ子のかき氷 群馬県 滝沢照香

入選 春先や次の御代待ち暦はぐ 群馬県 竹渕てる子

入選 地球の香持て蒲公英の絮とべり 群馬県 仙田美名代

入選 矢車やかからから廻りて天を射る 群馬県 山口岩美

入選 まだ逝けぬ未練残した柘榴かな 高山村 浅井茂樹